

Q&A

胆石症経過観察中に指摘された若年の膵腫瘍の症例

【問題】

症例：38歳，男性。

主訴：なし。

既往歴：急性胆嚢炎。

家族歴：特記すべきことなし。

嗜好歴：機会飲酒程度，喫煙なし。

現病歴：胆嚢結石の経過観察目的で施行した腹部超音波検査にて，膵尾部に低エコーの腫瘤を指摘された。

現症：眼瞼結膜に貧血なし。眼球結膜に黄染なし。甲状腺腫大なし。腹部は平坦，軟。腫瘤触知せず。表在リンパ節腫脹なし。

血液検査：WBC 6600/ μ l, Hb 15.6g/dl, Plt 21.5 $\times 10^4$ / μ l, AST 36U/l, ALT 32U/l, ALP 355U/l,

γ GTP 86U/l, T-Bil 0.5mg/dl, AMY 72U/l, TP 6.8g/dl, Alb 4.2g/dl, BUN 11.3mg/dl, Cre 0.78mg/dl, Na 140mEq/l, K 4.4mEq/l, Cl 107mEq/l, Ca 9.1mg/dl, IP 3.3mg/dl, Glu 102mg/dl, CEA 2.3ng/ml, CA19-9 8.6U/ml, インスリン 8.4 μ U/ml, PTH 38pg/ml, ガストリン44pg/ml。

腹部造影CT (Figure 1), 腹部単純MRI (Figure 2) を示す。

1. 膵腫瘍の診断は？
2. 鑑別疾患は？

解答は日本消化器病学会雑誌110巻9号をご覧ください。

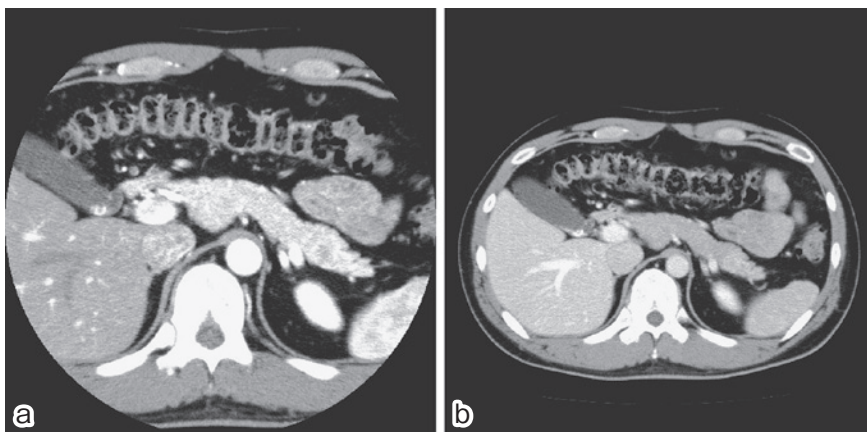


Figure 1. 造影CT a. 早期層, b. 後期層. 膵尾部に1.2×1.4cm大の，早期相で辺縁が染まり後期相で淡く染まる腫瘤を認める。

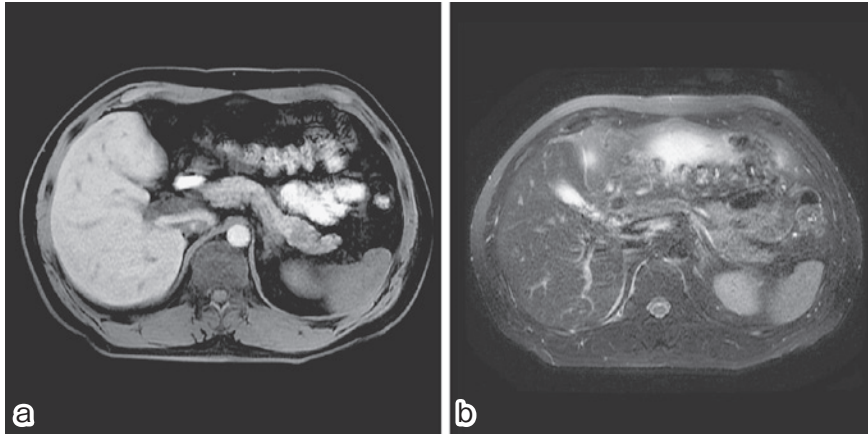


Figure 2. 腹部 MRI a. T1WI, b. T2WI. T1WIで低信号, T2WIで膵実質と同等の信号を呈する, 充実性の腫瘍を認める.